



堂島小学校の田んぼは、支援員さんを初め、手伝いに来て下さる保護者の方々にとって、特別な場所です。学校の稲作活動は「農業科」導入以前から、みんなのお父さん達が、子どもの頃から続いています。地域の人々は皆、この田んぼから環境や食への感謝を学んできました。5月、今年も保護者と支援員さんに教えていただきながら、みんなで楽しく田植えをすることが出来ました。



8月、3年生は、暑い日ざしの中、みんなでジャガイモを収穫しました。土の中から面白いようにゴロゴロとジャガイモが出てきて、楽しく収穫できました。収穫したジャガイモは、痛まないように日陰でよく乾かして、保存します。今から食べるのがとても楽しみです。また今年、3年生は、ポップコーンと枝豆の栽培にも挑戦しました。



一週間ほど天日干しした稲を、10月にみんなで脱穀しました。昔の脱穀機を使って、籾とワラを分けます。その後、唐箕（とうみ）という選別機にかけました。作業中は、小さく砕かれたワラ屑がいっぱい飛んで、顔や腕につくとチクチク痛くて大変でした。辛かったけど支援員さんに協力して頂いて、がんばって作業しました。



11月、脱穀して残ったワラを使って、地域の方々にワラ細工を教えてもらいました。縄、履物など、昔の人の生活に身近なもののほとんどは、ワラで作ることが出来るそうです。ワラを編むのは、なかなか難しかったけど、みんなに手伝ってもらって、形にすることが出来ました。稲は捨てる場所がないんですね。昔の人は物を大切に使うんだなぁと感心しました。